

平成27年度 学校評価シート

学校名： 和歌山商業高等学校

学校長名： 志賀 秀生

目指す学校像	・創立111年の伝統校にふさわしい学校をつくる。生徒の品位ある生活態度・通学マナー・清掃活動及びわかる授業の徹底を通して生徒・教職員が共に誇りに思う学校 ・校訓「真理、正義、勤労、礼節を重んじ、よき社会人、力強い職業人を育成する」に示された生徒像で身だしなみ・マナーやルールを守る・時間を守ることのできる生徒。
育てたい生徒像	

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上)	1 地域の学校としての信頼を高める取組の徹底する。
	2 良き社会人になるための自律的な生徒を育成する。
	3 就職や進学に対応できる学力向上の徹底し、地域と連携した取組を推進する。
	4 特別活動の活性化を図り、人間性豊かな人材を育成する。

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法
本校のホームページに掲載

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (3月14日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	生徒の規範意識を向上させ、登下校の通学マナー(交通ルール)の向上及び地域社会への貢献活動が不十分である。	①交通事故や苦情が減少したか。 ②校内及び学校周辺の通学路の清掃が行われたか。	①組織的に毎日の校門指導及び定期的に街頭指導を行う。警察等外部教育力を活用して生徒の意識向上に努める。 ②学校周辺の通学路等の清掃活動を生徒会を中心に行う。	①通学時事故及び通学マナーの苦情が少なくなる。 ②学期に1回学校周辺の清掃活動を行なう。	①自転車通学のマナーが向上し、苦情は大幅に減少したが、通学時の交通事故は昨年同様であった。 ②学校周辺の清掃活動は一部のクラブ員のみであった。	B
2	ワンランク上のビジネスマナー(身だしなみ、ルールやマナー・時間を守る、コミュニケーション能力)を身に付け、希望する進路を積極的に実現しようとする生徒を育成する。	①身だしなみ・スマートフォンで指導する生徒が減少したか。 ②遅刻者が減少したか。	①全教職員が生徒指導=進路指導と位置づけ、毎日担任・教科担当等全教職員で粘り強く指導する。 ②学年団及び生徒指導部が連携して風紀アセンブリー・事後指導を行う。 ③身だしなみ・スマートフォンのマナー・遅刻を一定回数指導しても改善されない場合は、保護者を召還して指導、保護者の協力を得る。	①月5回以上の遅刻指導人数が2割以上減少する。 ②全教職員でスマートフォンのマナー指導・預かり指導を徹底できる。 ③保護者との連絡を密にとり、理解と協力を得られる。	①何度も遅刻指導を繰り返す行う生徒は減少した。 ②身だしなみやスマートフォンのマナー等は指導された時は素直に従うが、根本的に改善されていない。	B
3	生徒一人ひとりに応じた進路実現に必要な基礎・基本の学力及び応用力を習得させるために、授業改善の研修を行い、教師力の向上に努める。	①1年生総合的な学習の時間「キャリアデザイン」で、1年生より進路意識を育てる取組が行われたか。 ②2年次よりのコース制の選択により、資格検定取得や進路決定に繋がった。	①生徒による授業評価の効率的な実施とその活用により授業を改善する。 ②校内外での教員研修の機会を増やし、充実させる。 ③進路保障のために、補習も含め、上級検定、資格取得指導を行う。また、コース制を生かした取組を実施する。 ④基本的な学習習慣(家庭学習も含む)の身に付ける取組を行う。 ⑤1年生より進路目標を確立し、2～3年において進路決定に向けて取り組むなど、学校教育全体を通してのキャリア教育・職業教育全体計画を作成し、その実現を図る。 ⑥実力診断テストを全員受験させる。	①生徒による年1回の授業評価と教員の自己評価の実施、その改善・検証会議の年1回開催する。 ②年2回以上の授業研究・公開授業を実施する。 ③若手教員を中心に、校内研修会「和風塾」を10回以上開催する。 ④上級検定取得・資格取得の20%増加を実現する。 ⑤就職内定率100%を実現する。 ⑥高大連携・行政(県・市)・地域や企業の人材を活用してキャリア意識育成の取組を昨年より増加させる。	①生徒による授業評価と自己評価及び改善・検証会議を行った。また、アクティブ・ラーニングを活用した研究授業を行うなど授業改善意識が向上した。 ②和風塾を4回しか開催できなかった。 ③上級の検定や資格取得が昨年同様であった。 ④就職内定率100%を早い段階から達成することができた。 ⑤昨年同様の連携事業と楽天IT学校・国体や全国総体にに関わ商業高校らしい取組ができた。	B
4	集団生活での自分の居場所をつくるのが苦手な生徒が増えてきている現状がある。生徒会・クラブ活動等、特別活動への参加生徒が横ばいである。	生徒会・クラブ活動等、生徒の特別活動への積極的に参加したか。	①特別活動部を中心にその見直しと活性化を図る。 ②クラブ活動生徒の参加率の維持とクラブ成績を上げる。	①生徒会の活性化を図るため、生徒会執行部との年3回話し合いを行う。 ②年度末に運動部、文化部とも35%を維持する。 ③県大会・近畿会・全国大会への出場及び結果の昨年以上の実績を上げる。	①生徒全体で、国体や全国総体に積極的に関わるように努めた。 ②クラブ活動への参加率及び実績は現状維持であった。	B

学校関係者評価
平成28年1月 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等

保護者(526名)対象 学校評価

保護者意見

- ・就職専門コースがあっても良いのではないのでしょうか。
- ・保護者が実際に学校の様子を知るための授業参観や体験授業や機会がないので評価が難しい。
- ・商業高校であるのに、外から見てその売り(?)が前面に出ていないように思います。
- ・進路に関する情報提供と生徒が情報交換しやすい環境整備をお願いします
- ・生徒の自転車マナーの悪さが目立つ。信号無視や危険な横断などよく事故がおこらないと思う